
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 339 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2012.08.24（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1132 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 官邸前デモで感じたこと 安富六郎

<山崎農業研究所：総会記念記念フォーラム（2012.07.21）速報>

2. 渡部よしの氏（福島県有機農業ネットワーク副理事長）

放射能汚染の中での農の営み、この一年

—ネットワークの仲間に支えられて

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

<編集後記> ふるさとを追われる哀しみ

<巻頭言> 官邸前デモで感じたこと

毎週金曜日の夕方 6 時頃から、国会周辺には、時には主催者発表で 10 万人を超すような原発反対デモがある。大飯原発再開に対する抗議、脱原発、そして政府への不信など、今の政治に対する様々な要求があるという。新聞や電子耕（No.336）などに刺激されて出かけることにした。

昭和一桁生まれには、デモへの直接的な参加は無理だ。ただ見学程度のものであったが、その人数に圧倒された（8/3）。拡声器からはこの日はとくに混雑が予測されるというアナウンスが聞こえる。国会議事堂前駅の地下鉄口から、警官の人垣に誘導されて正門前方向に歩く。あたりは静寂なざわめき程度だ。突然、警官が大声で一人の男を追いかけて叫ぶ。「逮捕、逮捕する。体当り」。びっくりした。なんだか異様な感じが一瞬あった。シュプレヒコール「原発再稼働は許さないぞ」などは穏やかなものだ。子供連れのお母さんもいる。かつて体験した安保闘争（1960）のデモとは雰囲気が違う。

安保闘争時代には乱闘もあって学生も死んだ。多くの逮捕者が出た。安保阻止

と脱原発では、その意味は異なるが、戦争、原爆・放射能被曝を通して、人々に不幸もたらすことでは同じだ。福島原発事故の放射能汚染は身近な生活に忍びこみつがある。漁業・林業・農業、そして、広域の生命、自然環境にも重大な被害をもたらしている。ヒロシマ・ナガサキを含め、多くの人々にとって、原子力利用は悪の元凶である。

700万人を超える原発反対の署名簿すら無視する政府に、この切実な声が届くことを願うのみであるが、このような民意を踏みにじるような人々を国会に送り出した、われわれにも責任の一端があると思いつつ、早々に場を離れた。誰かが言った。「たかが電気のために生命を危険にさらす事は無い」。この真の意味はデモに参加すれば分かる。

安富六郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<山崎農業研究所：総会記念記念フォーラム（2012.07.21）速報>

去る7月21日、山崎記念農業賞表彰式ならびに総会記念フォーラムが行なわれた。今回、山崎記念農業賞を受賞したのは福島県有機農業ネットワーク。表彰理由は「農のネットワーク力にもとづいた福島再生」である。表彰式の後、総会記念記念フォーラム（「福島県有機農業ネットワークの皆さんを囲んで」）が行なわれた。

□総会記念記念フォーラム

2. 渡部よしの氏（福島県有機農業ネットワーク副理事長）

放射能汚染の中での農の営み、この一年

—ネットワークの仲間に支えられて

原発事故によって断ち切られた地域内循環、土壌汚染の中で周辺の広い範囲でその影響が出た。大豆を作ってきたが、それを大量に使う豆腐屋さんが、放射能汚染で廃業してしまった。そのために毎年売れるべき大豆が売れなくなった。

今年は少量の生産になった。落ち葉は有機農業に大切な資源であるが放射能

の危険があり、使えない。そこで、大豆と米ぬかと混ぜて発酵させた肥料を造って、有機栽培肥料に利用した。その安全度を表すために数値化を行った。水田の水口では放射線量は高くても水尻では低い。だが、水稲でのコメの放射能値は意外に低く、基準値以下の十分安全領域にあることが分かった。

有機栽培で作る水稲の成果は良好で、放射能検査には問題は無かった。しかし、生産したコメは数値は低くても業者は引き取ってくれない。実際に安全基準よりも十分低く安全であり安心できるものは、近くの米屋さんが引き取ってくれた。マスコミは極端な数値を、すべての生産物に当てはめるか如くに報道する。そして問題の無いような通常の数値であるときにはニュースにならないので、悪い風評のみが伝わっている。

今、このような苦悩の中で、生産者の広域なネットワークを作って、正しい情報づくりをしている。仲間はお互いに励まし、成長しているが、さらに生産者と消費者が信頼関係で結びつく事に努力している。しかし、製品を検査に出す時はいつも、あたかも裁判にかかるような緊張感があった。この安全・安心の信頼性の高い事を、ネットワークを通して広く伝える努力をしている。

原発被害の問題は単に賠償すれば済むというものではない。この美しい里山を元通りに戻すには、絶えざる人の努力がなくてはならない。お金よりも人の命がより大切である事を日本中の共通の認識にすることが大切である。

(文責 安富・田口)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.127』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

農地の放射能汚染問題の解明◎塩沢 昌

[第37回研究所総会・総会記念シンポジウム]

■総会記念シンポジウム「東日本大震災と農業・農村」

(1)東日本大震災による農業インフラの被災状況◎渡邊 博

(2)福島—希望への道筋を探りながら◎戎谷徹也

(3)風評被害を乗り越える経営力を求めて

—東海 JCO からフクシマ◎照沼勝浩

[特別寄稿]

放射性物質汚染の過度な危険視が農業復興を阻む◎西尾道徳

土壌生成理論・腐植前駆物質による放射能汚染対策の

可能性について◎高味充日児

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナリズム [18・最終回]

情愛のふるさと／宇根 豊

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戎谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3)「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半 X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 340 号の締め切りは 09 月 03 日、発行は 09 月 06 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 339 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.08.24（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****